

2011年12月31日(土曜日)

# 県政この1年

2011年



平成23年の県政の動きを、「福井新々元気宣言」の4つのビジョン「元気な産業」、「元気な社会」、「元気な県土」、「元気な県政」に沿って紹介します。また、日本に未曾有の被害をもたらした東日本大震災における本県の対応も紹介します。

## 北陸新幹線の県内着工認可決定

12月26日に、北陸新幹線の県内着工認可が決まりました。県内一丸となって訴え続けてきた運動の成果であり、長年にわたる県政の懸案に方向が出ました。

北陸新幹線は、本県が訴えてきた「日本海国土軸」形成の核であり、経済成長、災害に強い国づくりなどの面で、日本全体の将来にとって重要な基盤となります。

このため、今後も県内一丸となり、国など関係機関に対して、国家プロジェクトとして優先的に進めるよう働きかけていきます。また、県内開業を見据えたまちづくり、企業誘致、観光などを進め、皆さんと一緒に福井の将来の発展を目指していきます。



## 元気な産業

### 技術と戦略で勝ち抜く福井の産業

#### ○「ふるさと産業」の元気再生

金融機関と協力し、100億円の「ふるさと企業育成ファンド(基金)」を創設。運用益を活用して、新たな分野への展開を行う中小企業を応援しています。

また、県内外の理工系大学院生を対象に、県内企業で7年間勤務した場合に返済を免除する修学資金制度を新設。意欲ある中小企業の経営の多角化や人材の確保をサポートし、100年続く企業を育成します。

#### ○ 企業連合による新成長産業の創出

福井の炭素繊維技術を活用した電気自動車部材など、将来の需要を先取りした「ニューパラダイム製品」の研究開発を推進。活力ある高齢化、低炭素社会の構築に向け、県内外の企業連合により、福井の優位技術を活かした新成長産業の創出を目指しています。

#### 県内企業のアジア展開を応援

中国などアジア市場への県内企業の進出を支援するため、経済界と連携し、「ふくい貿易促進機構」を設立。県内拠点の「ふくい貿易促進プラザ」では、豊富な経験と知識を持つ専門員が相談に応じています。また、県上海事務所にも「ふくい上海ビジネスサポートセンター」も開設し、現地でのサポートを行っています。

県内での相談窓口／ふくい貿易促進プラザ(福井商工会議所ビル内) TEL:0776-89-1140

中国での相談窓口／ふくい上海ビジネスサポートセンター(県上海事務所内) TEL:+86-21-6295-3322

### 新しい方向をひらく農林水産業

## 農業を食料産業へ

消費者に選ばれる「福井米」づくりを強化するため、適期田植えや食味検査による品質向上とエコ農業を推進。「ポストこしひかり」の開発も本格的にスタートさせました。

また、園芸分野では、ブドウなど新たな特産果樹の作付けや、水田を活用した露地野菜の栽培を促進。企業的園芸を目指す農業法人には、機械化や経営アドバイスなど、ハードとソフト両面で支援し、生産規模の拡大や省力化を進めています。



20万種の稲から最良の1種を選び抜く  
「ポストこしひかり」開発



成長著しいアジア圏に県産食材を売り込もうと、新たに「県食品輸出促進協議会」を設立。香港、台湾、シンガポールに加え、12月にはタイで販売促進活動を初めて実施するなど、輸出货量・品目の拡大、輸出国の新規開拓につなげています。

## ○ 「越前・若狭の魚」を食卓へ

量販店、鮮魚店などでの「地魚コーナー」の設置や、「近海今朝(あさ)とれ市」の充実、給食での地魚の活用など、福井で獲れる魚が食べられる仕組みづくりを進めています。また、10月には県水産会館内に「ふくい地魚情報館」もオープン。「越前・若狭の魚」の販売、消費を拡大しています。



地魚への誇りを育むため、県内の全中学3年生  
にセイコガニを提供(坂井市丸岡南中学校)

## 観光とブランドを産業の柱に

### ダントツ日本一「恐竜王国」を目指して

恐竜博物館を拠点に、化石発掘現場で実物足跡化石を展示する野外博物館など、新たな魅力づくりを検討して観光拠点化を目指す「恐竜キッズランド構想」をスタート。また、各国の研究機関と連携し、「アジア恐竜学会」の設立準備を進めるなど、アジア最大の恐竜研究拠点化を目指します。

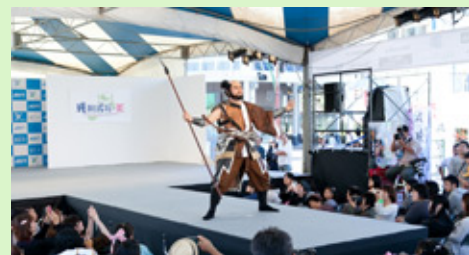
## ○ 観光客の200万人増を目指して

温泉や海、伝統的な町並み、自然環境、歴史などの地域の特色を活用し、さらに磨きをかけながら、競争力のある観光地づくりを重点的に進めています。

また、国内外の旅行会社への営業活動や大手宿泊予約サイトの活用のほか、教育旅行やアジアからの誘客を促進。おもてなし力の向上にも力を入れ、県内観光客入込数の200万人増加を目指していきます。



今年の大河ドラマに合わせ、「お江ら三姉妹ゆかりの福井」を全国に強力に発信。特別展や歴史をテーマとしたイベントなどを切れ目なく展開し「戦国ふくい」をアピールしました。



全国から「戦国武将」や「姫」が集まり賑わった  
9月の仮装コンテスト

# 元気な社会

## 日本のモデル「福井の教育」

### ○ 教育の柱である授業の質を向上し、全国にアピール

小中学校では、応用力や課題解決力を重視した独自の学力テストを実施。その結果を授業の改善、弱点克服につなげています。また、個々の教員の優れた教材や指導手法をインターネット上で集約・共有する「教育情報フォーラム」を新たに導入。教員同士の情報、意見交換を活発化し、指導力を高めています。

このほか、県外からの教員派遣や視察を積極的に受け入れるなど、「福井の教育」を全国に発信しています。

### グローバル時代に活躍できる人材を育成

英語教育では、中学校向けの英会話指導教材を新たに作成したほか、高校では、授業以外でも外国語指導助手(ALT)の「生きた英語」に触れる活動を導入。日常的に英語を聞く、話す機会を充実し、コミュニケーション能力を向上しています。

また、「ふくい理数グランプリ」や「南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞」、小惑星探査機「はやぶさ」の展示など、独自のサイエンス教育を展開。一流科学者の講演会も開催するなど、子どもたちの知的探究心を刺激し、グローバル時代にふさわしい人材の育成を目指しています。



ALTと昼食をとりながら英会話を楽しむ  
羽水高校の生徒たち

### ○ 幼児教育の充実を目指す

ゼロ歳児から高校生までの「福井型18年教育」の確立に向け、人間形成の基礎を培う幼児教育を充実するため、「幼児教育プログラム」の策定に着手。家庭や保育所、幼稚園、小学校など、地域のつながり(連携)を育む教育のあり方を検討していきます。

## 豊かな環境、もっと豊かに

### ○ コウノトリの舞う村里づくりを

越前市での受入れ準備を進めてきた国の特別天然記念物コウノトリのつがい2羽が、12月10日に兵庫県から移送され、飼育をスタート。今後は、かつての県鳥を自然再生のシンボルと位置付け、一日も早い「福井生まれのコウノトリ」の誕生、野生復帰を目指すとともに、多様な生き物が共生できる自然環境づくりに向けた地域一体型の活動をさらに推進していきます。



越前市白山(しらやま)地区の  
飼育ケージに移送された2羽のコウノトリ

### ○ 福井独自の「クールライフプロジェクト」

楽しみながら夏場の節電を目指す県民運動「クールライフプロジェクト」を展開。公共文化施設では昼涼みを楽しんでもらおうと、常設展を無料開放したほか、商店街や店舗では打ち水やドリンクの無料提供など、独自のサービスを実施しました。また、節電率などを競うコンテストや、LED照明器具の購入促進キャンペーンも行いました。

### ○ ふるさとの景観を県民共有の財産に

多様で豊かな自然や歴史と伝統に培われた町並みなど、福井の美しい景観を集めた「福井ふるさと百景」を選定。百景が選定された地域や伝統的民家の集積地区の景観づくり活動を支援し、県民の財産である景観を守り育てていきます。

[>>専用ホームページはこちら](#)

## すぐれた医療と支えあいの福祉

### ○ がんの早期発見・早期治療を

日本海側初の「陽子線がん治療センター」を、3月に県立病院に開設。身体への負担が少なく、高い治療効果が期待できる

最先端の治療を提供しています。また、小規模事業所での出前検診や、未受診者に対する電話での受診勧奨も新たに開始するなど、がん検診の受診率50%を目指しています。



最先端の陽子線がん治療で健康長寿をさらに向上

### 子どもの急病時の安全・安心がアップ

小児科専門医が、夜間や休日に365日体制で、急病の子どもを診療する「県こども急患センター」を4月に開設しました。  
場所／福井市城東4丁目14-30(福井市休日急患センター内)  
診療時間／月～土曜 午後7時～午後11時  
日曜・祝日 午前9時～午後11時(年末年始を含む)  
電話／0776-26-8800  
※専任の看護師による子ども急患医療の電話相談も実施しています。(相談専用短縮ダイヤル #8000)

## 若者のチャレンジと女性の活躍を応援

### ○ 若者チャレンジ応援プロジェクトをスタート

チャレンジ意欲のある若者が互いに協力し合い、より大きな活動に広げるため、新たに「若者チャレンジクラブ」を発足。若者による他県や海外へのチャレンジ活動、自主的な活動を通じて地域を活性化するとともに、将来のリーダーを育成します。



全国で初めての「企業子宝率調査」を9月から実施中。従業員1人当たりの子どもの数を数値化し、高い数値の企業を「子育てモデル企業」として認定、PRするなど、従業員が子育てしやすい企業を増やします。

# 元気な県土

## 県土に活気の高速交通時代

### ○ 「県都のデザイン戦略」議論をスタート

県都福井の30年、50年後の将来の姿を再設計する「県都デザイン戦略」の策定に向け、議論をスタート。長期的な展望を持ち、県都にふさわしい「まちづくり」について、皆さんと一緒に議論を進めていきます。



敦賀港が11月に、「国際フェリー・国際RORO船」の日本海側拠点港に選定。今後もポートセールスに力を入れながら、港湾サービスと航路のさらなる充実を目指します。

### 高速度交通ネットワークの早期完結・利活用を促進

7月に小浜西インターチェンジ(IC) また、東日本大震災で日本海側の国土軸の必要性がさらに高まったことから、国などに対して、新幹線の早期認可・着工、舞若道、中部縦貫自動車道の早期全線開通を強く求めてきました。

# 元気な県政

## 「希望ふくい」のふるさとづくり

## ○ 地方の新政策発信、交流強化で全国をリード

12県で構成する「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」では、「新たな国づくり税制調査会」を設置し、都市と地方がバランス良く発展するための税制の検討を新たにスタート。また、農産物直売所での相互販売や、首都圏のアンテナショップ同士の連携販売など、参加県間の連携をさらに強化しています。

## ○ 「幸福度日本一」の荣誉に

「47都道府県の幸福度に関する調査」で、本県が全国総合1位を獲得。優れた子育て、雇用環境など、さまざまな面で高い評価を得ました。

また、本県では、個人の「幸福」を重視するブータン王国の「国民総幸福量」と同様に、「ふるさと希望指数(LHI)」を研究中です。この縁で、西川知事が11月に、来日されたワンチュク国王に本県を紹介する親書などを贈呈。「幸福度」先進地同士のつながりを深めました。



ブータン国王ご夫妻に福井県が「幸福度日本一」であることを紹介

## 国体めざす県民スポーツ、生活のなかに楽しむ県民文化

### ○ 7年後の国体に向けた準備が本格化

平成30年に開催予定の福井国体に向け、25競技30種目の会場地を選定したほか、「県競技力向上対策本部」を設置し、選手の育成・強化を推進。また、審判員などの養成や、会場整備、広報活動にも力を入れるなど、着実に準備を進めています。



福井出身のプロボクサー清水智信選手が、8月にWBAスーパーフライ級王座を獲得。その功績をたたえ、新たに「県スポーツ特別賞」を創設し、贈呈しました。

### 子どもたちに本物の芸術と文化

すべての小学5年生に、本県出身の小松長生さんが指揮する、プロのオーケストラによる一流のコンサートを鑑賞する機会を提供。また、今年は新たに、文化活動者による地域での文化体験講座や、プロ奏者による弦楽器の指導も行うなど、子どもたちが身近な場所で、本物の芸術や文化に触れる機会を増やしています。



初めて触れるバイオリンに胸も高鳴る子どもたち(福井市社北小学校)

## 東日本大震災における対応

### ○ 災害・危機対策を強化

東日本大震災を受け、県地域防災計画の見直しを進めるとともに、空気中の放射線量を測定するモニタリングポストを増設し、監視体制を充実しています。

また、8月の総合防災訓練では、津波を想定した実践的な避難訓練を実施し、住民への避難情報の伝達方法など課題を検証しているほか、津波浸水予測図の作成も進めるなど、防災対策を強化しています。

加えて、自主防災組織率の向上や消防団員の加入を促進し、地域防災力の向上を目指しています。

### ○ 県民が信頼できる原発安全規制を求め続ける

福島第一原子力発電所のような事故を起こさせないため、県原子力安全専門委員会と合同で「安全対策検証委員会」を設置し、各事業者の安全対策を独自にチェックしています。また、国に対しては、今回の災害の知見を反映した安全基準の設定を繰り返し要請。皆さんが信頼できる、国の安全規制体制の確立を強く求め続けています。

### 福井から被災地・被災者を応援

被災地に災害ボランティア「チームふくい」を派遣。700名以上の方々が、がれきの撤去や医療・福祉面でのケアなどの活動を展開しました。

また、義援物資や義援金を募り、被災地に送り届けたほか、被害の大きい4県への「ふるさと納税」の代行作業を行いました。

このほか、県内に避難された方々には、住宅や雇用など、生活に必要な支援を提供。避難者のコミュニティ単位での受入れを行う地区の活動も支援しました。



被災地の皆さんの大きな支えとなった  
災害ボランティア活動

 **BACK**